

銀行の取締役・監査役

大蔵OB 138人天下り

住専処理策に風当たりも

住宅金融専門会社(住専)の設立母体でもある銀行の現職取締役、監査役に、大蔵省OBの天下りが百三十八人いることが二十六日、大蔵省が国会に提出した資料で分かった。住専本体への天下りに加え、設立母体である銀行にも大量のOB送り込みが確認されたことで監督官庁・大蔵省と住専との人的なつながりの深さが改めて浮き彫りになった。大蔵省がまとめた「住専処理策」への風当たりも強まりそうだ。(一面参照)

資料には、今年度の株主OBを実名で記載してあり、監査役が大蔵省からの天下り組だった。総会終了後の昨年六月末時点、すべての銀行の取締役か監査役を務める大蔵省

は会長、頭取、常務、監査役と四人が大蔵省OB。三人受け入れているのは、東北銀行、大阪銀行、親和銀行(以上地銀)、徳陽シティ銀行、東京相和銀行、島根銀行、熊本ファミリー銀行(以上第二地銀)と七行あった。

銀行全体の三分の二に当たる九十六行に、取締役以上が百二十人、監査役が十八人天下っていた。地方銀行では取締役、監査役合わせて第二地銀は全体の約四分の一に当たる十五行が大蔵省OB。大蔵省幹部の格好の天下り先となっている。大蔵省出身の会長も、全体で十九人いた。

このほか同時に農水省が国会に提出した資料によると、農協などの上部団体である農林中央金庫も、専務理事一人が大蔵省OB。同金庫には農水省から二人、日銀から一人も送り込まれている。

大蔵省OBの銀行への天下り状況 (95年6月末現在)

銀行	合計	取締役	監査役	その他
都長信地第二	44	21	11	12
銀銀銀銀銀計	50	14	14	22
信託	78	18	18	42
都長信地第二	138	33	33	72

もともと銀行数の少ない地方銀行は、大蔵省から天下りを受け入れている銀行は、複数受け入れている銀行にはつきり分かれていない。なかでも東日本銀行が明らかにされている。

住専各社では、十九日に大蔵省が公表した資料で、歴代の会長と社長に、大蔵省のOB十二人(現職は二人)が天下りしていたことが明らかにされている。